



平成 26 年 10 月 12 日

平成 25 年度体力・運動能力調査の結果について

文部科学省では、前回の東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催された、昭和 39 年度から体力・運動能力調査を実施してきました。今回の平成 25 年度調査で 50 回目の実施となります。

このたび、標記調査報告書を別添のとおり作成し、調査結果の概要を別紙のとおり取りまとめましたのでお知らせします。

文部科学省では、本調査の結果を踏まえ、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も見据え、引き続きスポーツ機会の拡充と体力・運動能力の向上のための取組を進めてまいります。

1. 国民の体力・運動能力の推移

(1) 青少年の体力・運動能力の長期的（昭和 39 年度～平成 25 年度）推移

小学生（11 歳）：握力，50m走，ボール投げ，反復横とび
中学生（13 歳）
高校生（16 歳）}：握力，50m走，ボール投げ，持久走 について分析した。

[長期的推移]

- ・昭和 39 年の東京オリンピック・パラリンピックから昭和 47 年の札幌オリンピックを経過して、昭和 60 年頃まで、握力，50m走，反復横とびについては、全ての年代の男女で向上傾向，ボール投げについては、小学生女子，中学生男子，高校生男子で向上傾向，持久走については中学生男女及び高校生女子で向上傾向を示している。
- ・平成 10 年の長野オリンピック・パラリンピック以降、50m走については全ての年代の男女で、反復横とびについては小学生男女で向上傾向，持久走については中学生の男女で向上傾向，高校生の男女では横ばいで推移している。

[昭和 39 年度（調査開始年度）と平成 25 年度の比較]

- 50m走及び握力は、高校生女子の握力を除いて昭和 39 年度の水準を上回っている。(図 1)
- ・ボール投げは、中学生男子を除いて昭和 39 年度の水準を下回っている。
- ・持久走は、中学生男女及び高校生女子で昭和 39 年度の水準を上回っている。
- ・反復横とびは、小学生男女で昭和 39 年度の水準を上回っている。

[昭和 60 年頃と平成 25 年度の比較]

- 50m走は、中学生男子及び高校生男子で体力水準が高かった昭和 60 年頃の水準を上回っている。(図 1)
- ・握力及び持久走は、全ての年代の男女で昭和 60 年頃の水準を下回っている。
- ・ボール投げは、中学生男子で昭和 60 年以降横ばいで推移している。
- ・反復横とびは、小学生男女で昭和 60 年頃の水準を上回っている。

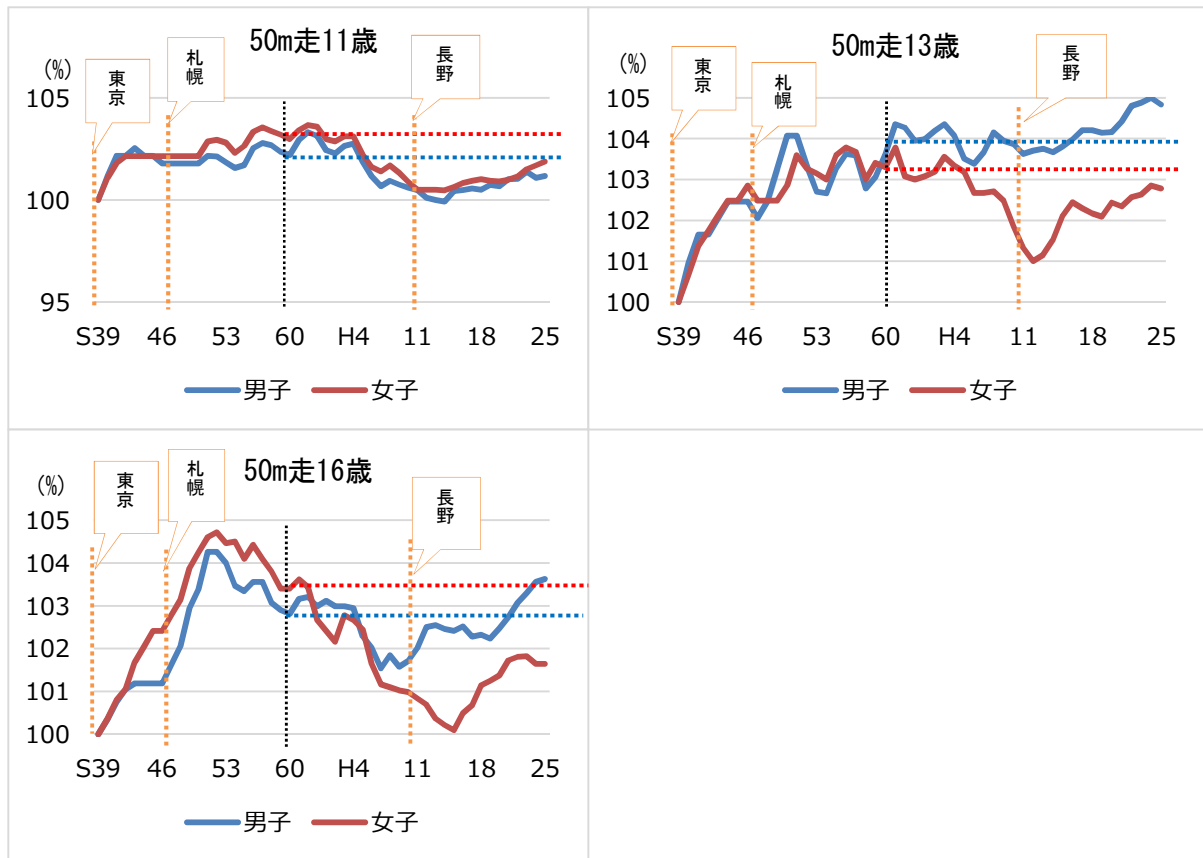


図1. 昭和39年度を基準値とした青少年の50m走の相対的推移(11歳, 13歳, 16歳)

(注) 1. 昭和39年度の記録(平均値)を「100」とし, 各年度の記録(平均値)を相対値で示している。
 2. 図は, 3点移動平均法を用いて平滑化してある。「.....」及び「.....」は, 昭和60年頃の水準。
 3. 「|」は, 日本におけるオリンピック開催年。

(2) 青少年の新体カスト合計点の年次比較(平成10~25年度: 16年間)

小学生(11歳), 中学生(13歳), 高校生(16歳)の平成10年度(調査開始年度)から平成25年度までの新体カテスト合計点の年次推移について分析した。

○全ての年代において, 男女ともに向上傾向を維持。(図2)

・平成25年度の合計点は, 新体カテスト施行後16年間で, 中学生男子及び小学生女子で第2位, 高校生男子で第3位。

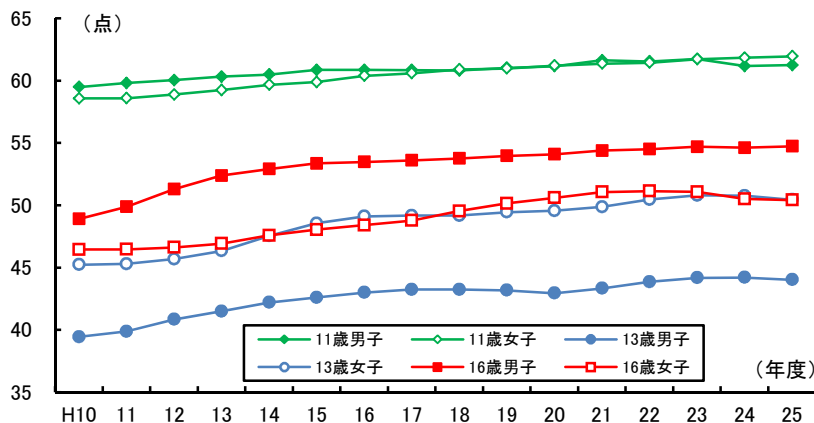


図2. 青少年(11歳, 13歳, 16歳)の新体カスト合計点の年次推移

(注) 図は, 3点移動平均法を用いて平滑化してある。得点基準は男女及び6~11歳(小学生), 12~19歳(中学生・高校生)で異なる。

(3) 成年の運動・スポーツ実施率の長期的（昭和52年度～平成25年度）推移

スポーツ基本計画の政策目標である「成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率」について、昭和52年度（調査開始年度）以降の推移を分析した。

- 運動・スポーツ実施率については、男女とも25～29歳及び35～39歳は、昭和52年度～平成25年度まで横ばいで推移しており、平成25年度は35～39歳の女子を除き昭和52年度よりも高い実施率を示している。（図3）
- 男女ともに45～49歳及び55～59歳は、昭和52年度以降向上傾向で推移。（図3）
- 女子においては、平成25年度の40～50歳代で20～30歳代を上回っている。（図3）
- 全ての年代の男女において、平成25年度の運動・スポーツ実施率は、スポーツ基本計画における政策目標値「3人に2人（65%程度）」を下回っている。（図3）

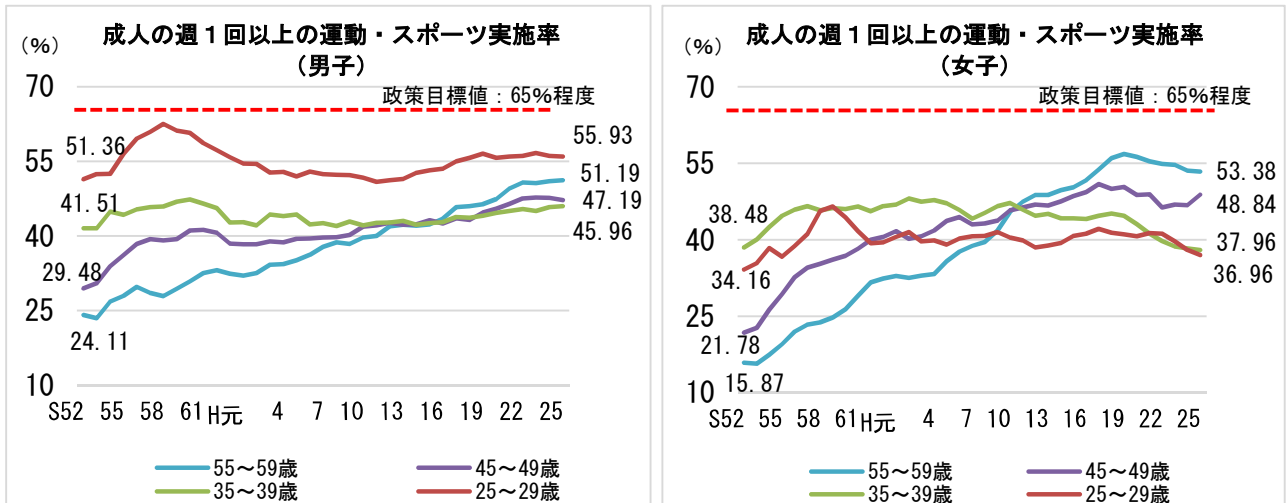


図3. 成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率の推移（昭和52年度～平成25年度）

（注）「ほとんど毎日（週3～4日以上）」と「ときどき（週1～2日程度）」の運動・スポーツ実施者を合計して、週1回以上の実施率を求めた。また、図は3点移動平均法を用いて平滑化してある。

(4) 高齢者の新体カスト合計点の年次推移（平成10～25年度：16年間）

65～69歳、70～74歳、75～79歳の平成10年度（調査開始年度）から平成25年度までの新体カテスト合計点の年次推移について分析した。

- 全ての年代において、男女ともに向上傾向を維持。（図4）
- ・平成25年度の合計点は、65～69歳女子及び70～74歳女子では過去最高。

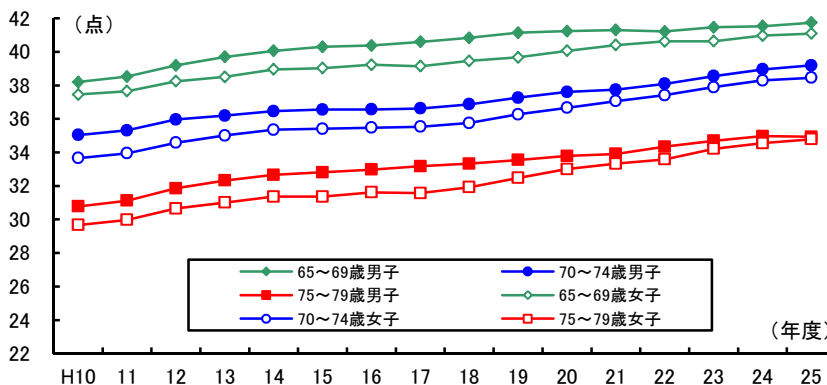


図4. 高齢者（65～79歳）の新体カテスト合計点の年次推移

（注）図は、3点移動平均法を用いて平滑化してある。また、得点基準は男女で異なる。

2. 三世代間における体力・運動能力の比較・分析

50 回分のデータを活用して、昭和 39 年度、平成元年度、平成 25 年度時における 10 歳の 50m 走、ボール投げ、反復横とびを取上げ、三世代が青少年の頃の体力・運動能力について比較・分析した。

○50m 走では男女ともに平成元年度の 10 歳が最も高い値を示している。昭和 39 年度と平成 25 年度の結果を比較すると、平成 25 年度の 10 歳が上回っている。

○ボール投げにおいては、低下が著しく、特に男子では、昭和 39 年度の 10 歳が最も高い水準（30.38m）であり、平成元年度は 2m 程度低下し、さらに、平成 25 年度では昭和 39 年度と比較して、6m 程度低下している。

○反復横とびについては、男女ともに平成 25 年度の 10 歳が最も高い値を示している。

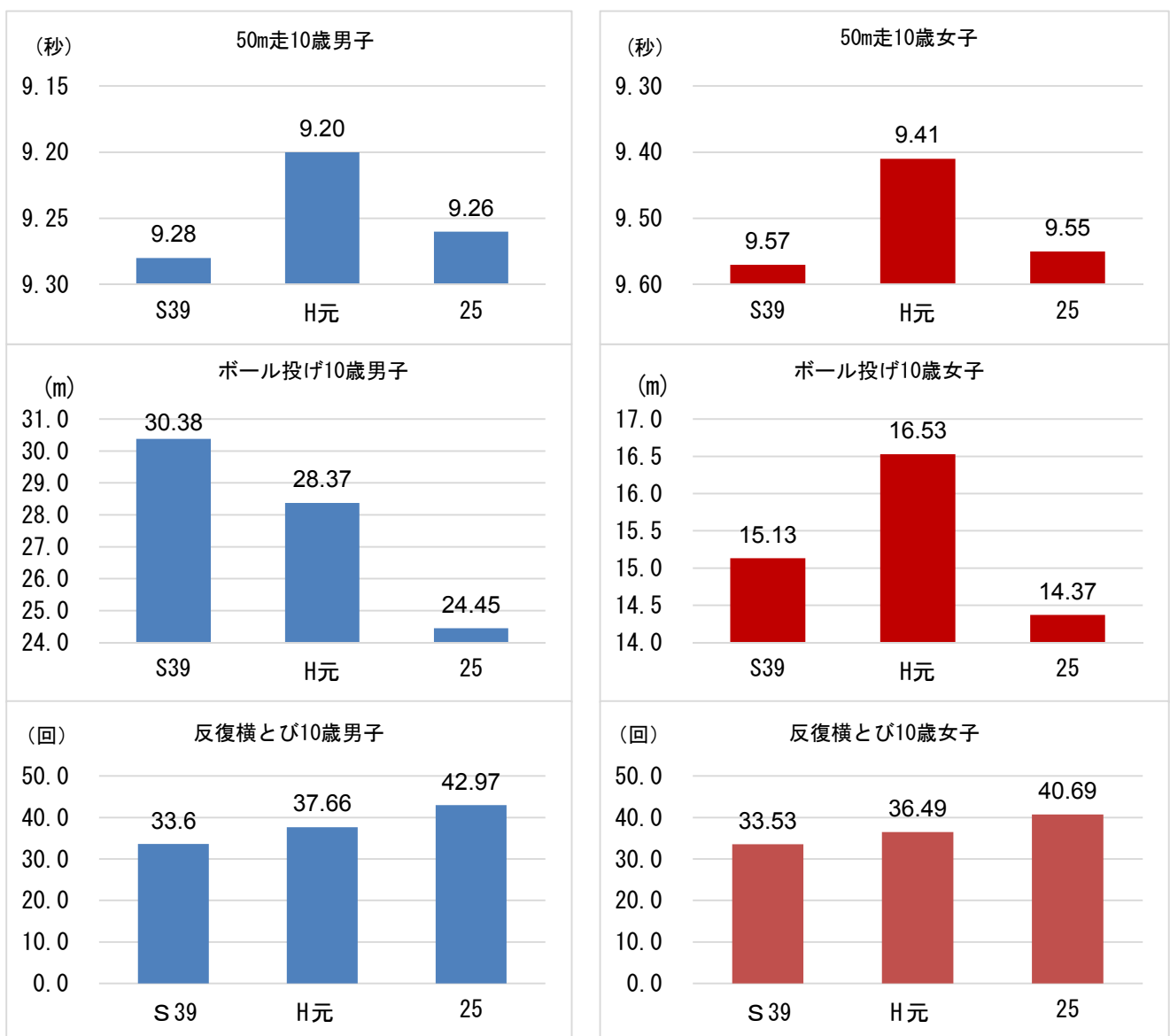


図5. 10歳の50m走、ボール投げ、反復横とびの三世代比較

＜担当＞ スポーツ・青少年局スポーツ振興課
 スポーツ指導専門官 関 伸 夫（内線 3489）
 スポーツ指導係長 那須野 親（内線 2686）
 電話：03-5253-4111（代表）
 03-6734-2686（直通）